



レポートの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [レポートの概要 \(P.5-2\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.5-5\)](#)
- [参考情報 \(P.5-6\)](#)

レポートの概要

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すると、システムの設定とコールハンドラについての情報を収集してレポートを作成できます。

Cisco Unity Connection Serviceability では、次のレポートを生成できます。

表 5-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート

レポート名	出力の説明
電話インターフェイスでの失敗したログオン	<p>電話での Cisco Unity Connection へのログオンが失敗した場合に、そのすべてのログオン試行について次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ログオンに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。 ログオン試行が失敗した日時。 ユーザが、ログオン失敗の最大回数に達したかどうか。
ユーザ	<p>各ユーザに関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 姓、名、およびエイリアス。 ユーザに関連付けられている Connection サーバを識別するための情報。 課金 ID、サービス クラス、および内線番号。 アカウントがロックされているかどうか。 ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしているかどうか。
ユーザのメッセージアクティビティ	<p>送受信されたメッセージに関して、次の情報がユーザごとに含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前、内線番号、およびサービス クラス。 各メッセージの日時。 各メッセージの送信元に関する情報。 完了した操作（新しいメッセージ、メッセージの開封、MWI オン要求など）。 ユーザが受信した新しいメッセージの数、およびメッセージ発信者に関する情報。 発信番号と結果。
同報リスト	<p>次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> リストの名前と表示名。 リストの作成日時。 <p> (注) 同報リストの作成日時は、グリニッジ標準時で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> リストに含まれているユーザの番号の数。 [Include List Members] チェックボックスをオンにした場合は、リストのメンバーになっている各ユーザのエイリアスのリスト。

表 5-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート (続き)

レポート名	出力の説明
ユーザ ロックアウト	<p>ユーザのエイリアス、ユーザがログオンに失敗した回数、資格のタイプ (結果が「4」の場合は Connection ガイダンスからのログオン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログオン試行を示す)、およびアカウントがロックされた日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザアカウントのロックアウト日時は、グリニッジ標準時で示されます。</p>
未使用ボイスメールアカウント	<p>ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザアカウントの作成日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザアカウントの作成日時は、グリニッジ標準時で示されません。</p>
転送電話課金	<p>各通話に関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。 • 通話が発生した日時。 • ダイヤルされた電話番号。 • 転送の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。
発信課金詳細	<p>次の情報が含まれています。これらの情報は、日付および電話をかけたユーザの内線番号に基づいて整理されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前、内線番号、および課金 ID。 • 通話の発生日時。 • ダイヤルされた電話番号。 • 通話の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)。 • 通話の長さ (秒)。
発信課金要約	<p>出力は、日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、および課金 ID に基づいて整理されています。この出力は1日 (24時間) のリストであり、指定された日の各1時間の発信時間 (秒単位) が示されています。</p>
コールハンドラトランフィック	<p>各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1日の各1時間に1行使用されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通話の合計数。 • 各タッチトーンキーが押された回数。 • 内線番号。 • 無効な内線番号。 • グリーティング再生後の操作が発生した回数。 • 発信者が電話を切った回数。
システムコンフィギュレーション	<p>Connection システムのコンフィギュレーションのすべての面に関する、詳細な情報が含まれています。</p>

追加情報

P.5-6 の「参考情報」を参照してください。

レポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポート生成の基礎となるデータを収集して格納するように自動的に設定されます。生成するレポートの出力内容に応じて、次のパラメータを調整できます。レポートのパラメータ設定は、すべて Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [アドバンス (Advanced)] > [レポート (Reports)] ページにあります。

- **[データ収集サイクルの間隔 (ミリ秒) (Milliseconds Between Data Collection Cycles)]** : デフォルトでは、30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、レポートデータを収集する各サイクル間に Connection が待機する時間の長さを制御します。
- **[レポート データベースのデータ保存期間 (日) (Days to Keep Data in Reports Database)]** : デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しようとするレポートに対して、この日数を超える値を対象期間として指定しても、データの日数はここで設定する値によって制限されます。
- **[レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)]** : デフォルトでは、25,000 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、30,000 レコードです。生成しようとするレポートで、レコード数がこの許容最大値を超える場合は、レポートを何回かに分けて生成します。たとえば、データ範囲を狭くするか、各期間に含まれるユーザーアカウントの数を減らします。



(注) ユーザーのメッセージ アクティビティ レポートでは、[レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] の設定が、デフォルトの 25,000 レコードではなく 15,000 レコードに制限されます。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

- **[進捗インジケータを表示するために必要な最小レコード数 (Minimum Records Needed to Display Progress Indicator)]** : デフォルトでは、2,500 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求したレポートのサイズが大きく、完了に時間がかかる場合に警告することです。Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートを生成している間は開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間、管理者はブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

レポート データのアーカイブ

レポート データは、設定したデータ保存期間パラメータに基づいて、徐々に上書きされていきます。履歴を残すためにレポートを保管しておく場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを計画し、それらのレポートを Connection サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

追加情報

P.5-6 の「参考情報」を参照してください。

レポートの生成と表示

レポートを生成する場合、次の項目の一部またはすべてを指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト（ユーザアカウントやコールハンドラなど）
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

[Web Page]	HTML ファイル。レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
[Comma-delimited File]	テキストファイル(カンマ区切り、または CSV ファイルとも呼ばれる)。レポート出力は、カンマ区切りのデータ スtring として表示されます。スプレッドシートプログラムなど、別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
[PDF File]	レポート出力は、読みやすい形式で PDF として表示されます。PDF は、印刷および保存できます。レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でないときが最適です。Connection が多くの通話を処理していない通常の営業時間後、または他のプロセスが実行中でない場合（たとえば、フルバックアップの前後）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成される場合、レポートは順に待機し、一度に1つずつ処理されます。



注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールを設定できません。また、レポートの生成中に Connection サーバをシャットダウンするか、Connection Administration のブラウザ セッションを閉じると、レポートの生成はキャンセルされます。

レポートを生成して表示する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Serviceability Reports] を選択します。

[Serviceability Reports] ページが表示されます。

ステップ 2 [Serviceability Reports] ページで、生成するレポートの名前をクリックします。

ステップ 3 レポート出力のファイル形式を、次の中から選択します。

- [Web Page]
- [Comma-delimited file]

- [PDF File]

ステップ 4 フィールドが使用可能な場合は、適切な開始日時と終了日時（年、月、日、時刻）をクリックして、日付範囲を設定します。

ステップ 5 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。

ステップ 6 [Generate Report] をクリックします。

ステップ 7 [ステップ 3](#) で選択したファイル形式に応じた方法で、レポート出力を表示します。

- [Web Page] を選択した場合、レポート出力はブラウザ ウィンドウに表示されます。
 - [Comma-delimited File] を選択した場合は、ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
 - [PDF File] を選択した場合は、ファイル ダウンロード ダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
-

追加情報

[P.5-6 の「参考情報」](#) を参照してください。

参考情報

- [レポートの概要 \(P.5-2\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.5-5\)](#)